

ひばりクリニックで在宅研修を終えて

研修医 坪山 峻

ひばりクリニックでの研修にあたり、まずはクリニックの横に併設している特定非営利活動法人うりずんを見学させていただいた。うりずんは民間の施設としては県内唯一の医療的ケアを必要とする子どものレスパイトケア施設である。レスパイトケアとは「家族の休息のために、介護の必要な障がい児者を一時的に預かること」である。例えば、人工呼吸器管理が必要なお子さんがいる。常に医師や看護師が常駐している病院とは違い、一般のご家庭で患者様の世話をしなくてはならないのはご家族である。経験や医療知識に乏しく、また交代人員の限られた家で日中お子さんの世話にかかりきりになるご家族の心労は想像に難くない。仕事にも行けず、また介護から離れて息抜きをする時間もない。そんなご家族の方の窮状に触れて、高橋先生が思い立ったのがうりずんの始まりであると教えていただいた。最初はたった一人の患者さんに一室を提供し、採算もたないまま見切り発車で始めた試みであるとのことであったが、宇都宮市の職員のかたの目に留まり、宇都宮市議会で審議が行われ、宇都宮市独自の事業として「重度障がい児者医療的ケア支援事業」が可決され、2008年6月、ついに「うりずん」が正式に開所した。うりずんは今では70名近くの利用者の方が利用し、自宅での医療的ケアや身体介護、外出の支援、重い障がいを持つ子どもたちのための児童発達支援、放課後等デイサービス、居宅訪問型保育など多々のサービスを提供しているという。

ひばりクリニックやその他のクリニックでの研修でも感じたことだが、在宅医療の一番の担い手はそこのご家族である。当然、在宅診療や訪問看護を行っている医師やその他のスタッフによる医療的支援なくしては成り立たないが、それ以上に求められることは常に最前線で患者さんの介護を行っているご家族に寄り添うことではないだろうか。高橋先生の診療はまさにご家族に寄り添う診療であった。先生はご家族、患者さんとの会話を非常に大切になされる。それこそが親密なラポール形成の手段だと教えていただいた。事実、先生は患者さんともご家族とも非常に良好な関係を築いているようであった。患者さんやご家族に寄り添う姿勢、これは在宅診療のみならず医療者としてどのような現場でも求められるものではないだろうか。ひばりクリニックでの研修では、在宅診療に関する新しい知見だけではなく、医療者としての原点である心構えについて再度学びなおすこととなった。最後にはなるが、非常に実りの多い研修をさせていただいたことを高橋先生、スタッフの方々、快く見学を受け入れてくださったご家庭の方々み厚く御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。